

相模原市公共交通整備促進協議会は、相模原市、市議会、自治会連合会、市内各種団体により構成され、昭和44年の設立以来、相模原市域の鉄道、バス交通等、公共交通の整備促進などを目的に鉄道、バス及びタクシー事業者への要望活動や、公共交通の利用促進に向けた啓発活動等を行っています。

祝 市内交通が100周年を迎えます！



JR 相模線

令和3年9月に、相模線は開業から100周年を迎えます。

1921年(大正10年)9月28日に相模鉄道(株)として開業(茅ヶ崎一寒川間)した相模線は、相模川で採取された砂利の輸送などを行っていましたが、1931年(昭和6年)に現在の区間である茅ヶ崎一橋本間で全線開通となりました。

また、1991年(平成3年)には全線が電化され、地域住民の暮らしを支える重要な路線としてその歴史を歩んできました。

この機会にぜひ相模線を利用してみてください。



ディーゼルカー
昭和31年頃に活躍
していた4枚窓の
ディーゼルカー
(村多正氏所蔵)

番田駅付近
列車本数が少なく、線路づたい
に歩く乗客(昭和39年頃)
(村多正氏所蔵)

西寒川駅
日本国有鉄道時代の寒川支線
(寒川～西寒川間1.5km)の
終点駅で昭和59年に廃止

電化直前の相模線(入谷駅)
架線柱も立ち、電化工事が着々
と進み中を相武台下駅に向けて
発車する気動車(平成3年頃)

神奈川中央交通

令和3年6月に、神奈川中央交通株式会社は創業100周年を迎えます。

1921年(大正10年)6月5日に前身である相武自動車(株)が設立され、戦後復興期の1951年(昭和26年)に現在の社名となりました。

1962年(昭和37年)にはワンマンバスを導入し、1970年(昭和45年)には、全国で初めての深夜バスを運行するなど、神奈川県内を中心に通勤・通学に欠かせない重要な交通手段として「神奈中バス」の名で親しまれています。

この機会にぜひ「神奈中バス」を利用してみてください。



戸塚町(昭和初期)相武鶴屋自動車



いすゞの大型ディーゼル車(戦後導入)



ワンマンバス(1962年から運行開始)



業界初の深夜バス運行

安全・安心
への
取り組み!

JR横浜線淵野辺駅に 市内で初めてのホームドアが 設置されました!

ホームからの転落やホーム上での列車との接触事故を未然に防止することを目的に、各鉄道事業者においてホームドアの整備が進められていますが、令和3年2月、JR横浜線の淵野辺駅に、市内の鉄道駅で初めてホームドアが設置されました。



▲淵野辺駅に設置されたホームドア



次期総合都市交通計画の 策定を進めています



相模原の
将来の交通に
ついて
考えよう!

相模原市では、20年後の将来を見据えた「相模原市総合都市交通計画」の策定に取り組んでいます。

令和2年11月には、市民の方々から市内の交通についてご意見をお聞きするため、市内4ヶ所でオープンハウスによるアンケート調査を実施しました。

その中で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大後に外出が減った人は約50%にのぼり、公共交通の利用割合も約40%減ったことが分かりました。

また、路線バスの維持や定時性の向上、歩道や自転車通行環境の整備、運転免許証返納後の移動手段の確保などについて要望が寄せられました。

いただいたご意見は、今後の計画策定の参考とさせていただきます。





みんなで使おう公共交通！



安全で安心！

バスの事故件数は、バスを除く自動車の約320分の1であることから、安全性が高い交通手段と言えます。(警察庁交通局「令和2年中の交通事故の発生状況」より試算)

また、市内を運行する路線バスやタクシーでは、乗客の皆さんが安心して公共交通機関を利用できるよう、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策に取り組んでいます。

市では「公共交通支援金」を創設し、こうした取組を行う路線バスやタクシー事業者を支援しています。

換気装置▶



《感染防止の主な取組》

- 換気装置の常時稼働や窓開けをして車内を換気
 - 運転士は検温・うがい・手洗い・手指消毒の実施、マスクを着用(回送時などを除く)
 - バスの手すり・つり革など、車内を消毒
- 5分以内で空気の入替えが可能▶

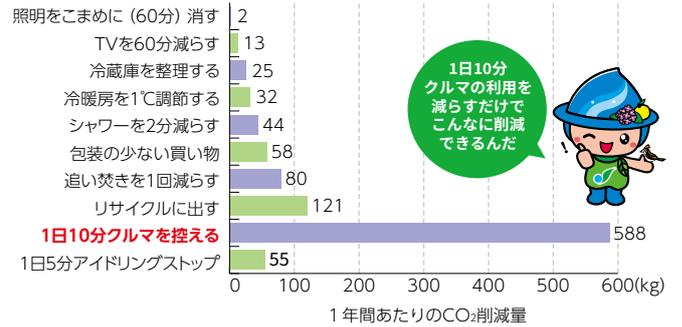
環境にやさしい！

環境にやさしい行動として、「冷暖房の調整」や「リサイクル」などがよく言われていますが、実はクルマの利用を少し控えることの方が何十倍も効果的です。

また、1人を1km運ぶのに排出される二酸化炭素(CO₂)は、電車は自家用自動車の約1/7、バスは自家用自動車の約2/5のため、環境にやさしい交通手段と言えます。

環境負荷軽減

1世帯が1年間で節約できるCO₂排出量



出典：環境省のデータを基に東京工業大学が算出

要望活動を実施しました！



相模原市公共交通整備促進協議会では、公共交通の利便性向上に向けて、令和3年2月に各交通事業者へ要望活動を行いました。



主な要望内容

- 東日本旅客鉄道株式会社 横浜支社
横浜線の輸送力増強、相模線の複線化等
- 東日本旅客鉄道株式会社 八王子支社
中央本線の輸送力増強、特急電車の停車等
- 小田急電鉄株式会社
小田急線の輸送力増強、多摩線の市内への延伸等
- 京王電鉄株式会社
京王相模原線の利便性向上、駅施設の整備等
- 神奈川中央交通株式会社
運行サービス水準の向上、環境に配慮した取組の推進等
- 県タクシー協会相模支部相模原地区会
利用者サービスの向上、バリアフリー施策の推進等

《これまでの要望活動の主な成果》

- ・ノンステップバスの導入
平成10年度に補助制度を開始して以来、119台/238台中(令和2年4月1日現在)のノンステップバスが導入されました。(市内バス営業所に限る)
- ・ユニバーサルデザインタクシーの導入
平成31年度から令和2年度までの補助を実施。令和2年度は8台の補助を予定しています。



▲ノンステップバス
出入口の段差を無くして乗降性を高めた低床バス



ユニバーサルデザインタクシー▶
誰もが利用しやすい新たなタクシー車両

都市交通の充実のために寄附であなたも市政に参加してみませんか！

相模原市では、都市交通施設の整備にかかる費用の一部にするため、都市交通施設整備基金への積立を行っており、市民の皆様や企業などからの寄附を受け付けております。詳しくは事務局までお問い合わせください。

